

2020 SUPER GT 第1戦 富士スピードウェイ

2020年7月19日(日)

予選

来場者:0人

天候:くもり時々晴

2020年のSUPER GTシリーズ開幕戦は新型コロナウイルス感染予防のために無観客で開催され、予選と決勝を同日に行う変則的なスケジュールで行われた。

TGR TEAM KeePer TOM'Sの37号車は、今シーズンも平川 亮とニック・キャンディのコンビでチャンピオン奪還を目指して臨む。雨の天気予報から好転してドライコンディションで行われた予選において、コースレコードを更新してトップタイムをマーク、開幕戦のポールポジションを獲得して決勝の300kmレースを迎えることとなった。15年ぶりにレースに復活したスーブラのデビューウィンへ向け好発進した。



- 午前中は雨という予報だったが、早朝に雨は止み、予選が開始される時点では、一部のウェット路面を残していたが、瞬間にドライへと変化した。
- Q1をニック・キャンディが担当。ソフトタイプのタイヤでタイムアタックして4番手でQ2進出を果たした。
- Q2の時点では全コースがドライコンディションに変化して路面温度は上昇、ハードタイプのタイヤをセットして、それに合わせた若干のセットアップを施して平川 亮がコースインした。
- 平川は、予定通りにコースインして4周タイヤを十分にウォームアップし、5周目にアタック。
- コースレコードタイムを更新しトップタイムを叩き出して、自身5度目のポールポジションを獲得した。

Driver	Car No.	Qualifying 1		Qualifying 2	
平川 亮	37	P4		P1	1' 26.550
ニック・キャンディ			1' 27.052		
天候/路面	曇り時々晴/ハーフウェット～ドライ				
気温/路面温度	24～25°C/29～35°C				

平川 亮 (37号車ドライバー)



「マシンの調子はとても良くて、ここまで良いセットアップをしてくれたチームに感謝です。そして気温と路面温度が上昇した Q2 のコンディションに合ったハードタイヤもとてもマッチしていてトップタイムを叩き出すことができました。その点では運も味方してくれるかなと思っています。ニューマシンのポテンシャルを発揮することができてうれしく思うのと同時に、こうなったらポール to ウインを狙いたと思います。ロングランの感触もとても良いので頑張ります」

ニック・キャンディ
(37号車ドライバー)

「やっと開幕したシリーズの開幕戦でポールポジションを獲得できて最高の気持ちです。スープラはとても良いクルマに仕上がっている。TOYOTA GAZOO Racing とチームが素晴らしいクルマを用意してくれた。そして亮が素晴らしいタイムを叩き出してポールポジションを獲得してくれた。担当した Q1 でのドライブはとても安定していた。NSX 達が速さを示していたけれど、ポールポジションへの可能性はかなり高いと信じていた。レースに復活したスープラのデビューウインを目指して決勝で頑張りたい」

小枝正樹 (37号車エンジニア)



「気温、路面温度の変化があったので簡単ではない状況の中で獲得できたポールポジションでした。事前の合同テストでは NSX の速さが気になっていました。そして、前日の練習走行のコンディションが今日のコンディションと大きく異なったのでタイヤチョイスをどうしようか悩んだのですが、ニックと亮でタイヤの選択を分けて、それがとてもマッチした結果で獲得できたポールポジションでしたね。復活したスープラのパフォーマンスの高さを披露することができて安心しました。決勝は、まだ見えない要素、不確定な部分もありますから、コンディションにうまくアジャストして優勝できるよう全力で臨みます」

東條 カ(チーフエンジニア)



「37号車は、ドライバーもエンジニア、メカニックも従来通りの状態ですから、予選も好結果は出せるだろうと予想していましたが、ポールポジション獲得という最高な予選結果を出すことができました。土曜日の練習走行では、路面温度が低くて予選のコンディションと大きく異なっていましたが、うまくセットアップとタイヤチョイスをマッチさせた結果ですね。Q2のタイヤチョイスはハードタイプですが、36号車とは若干異なるものでしたが、それは6月の合同テストでの結果とフィーリングでチョイスしたものです。決勝を見据えてロングラン走行でも36号車とともに37号車も安定して速いタイムを記録しているのでかなり良い結果を残せるのではないかと考えています。NSXの速さが気になりますが、できることならTOM'Sの2台が1-2フィニッシュで開幕戦を終えられたら最高ですね」

山田 淳 (37号車監督)



「コンディションがどう変化していくのか、タイヤチョイスはどうしようかドライバー、エンジニアと話し合っってQ1とQ2ではタイヤを変えてアタックすることとしました。亮とニック共に頑張ってくれたおかげでポールポジションを獲得できたのでとても良かったです。新型スーブラで初めての予選、決勝ですから、正直、不安でした。まずは、予選でトップだったのでホッとしています。決勝はコンディションが変化したら、どうなるか…。開幕戦は往々にしてアクシデントやトラブルが起きることがあるので安心してはいられません。練習走行では決勝モードのタイムは良かったです。しかし、まだパーフェクトとは言えないので、チーム全体で集中して優勝を目指します」

館 信秀 (総監督)



「亮とニックのコンビはチャンピオン経験もあるわけですから狙うは常にベスト。とは言っても実際にポールポジションを獲得してくれて最高の気分だ。新型スーブラデビューの開幕戦の予選で素晴らしいパフォーマンスを發揮してくれた。欲を言えば36号車も横に並んでくれたらTOM'Sチームとしてはもっと気分が良かった。それは、決勝に実現するように残しておこうか」

2020 SUPER GT 第1戦 富士スピードウェイ

2020年7月19日(日)

決勝

来場者:0人

天候:曇り時々晴れ

2020年シーズンの開幕戦をポールポジションからスタートした TGR TEAM KeePer TOM'S の 37号車は、トップのポジションを一度も明け渡すことなく、300km レース 66 周を走り切り、ファステストタイムも記録して、パーフェクトのポール to ウインでニューマシンの GR スープラデビューに華を添えた。2017年にチャンピオンを獲得して以降、王座奪還に向けて最高の形でシリーズの初戦を制した。



- ニック・キャンディがスタートドライバーを担当。
- スタート直後に 100R 手前で GT500 クラスの後続車両が接触して 1 台がストップ。このアクシデントで 5 周を終了するまでセーフティカーがコースインした。
- 最高のスタートを切って 1 周目からリードしたキャンディだったが、仕切り直しとなり、6 周目の再スタートでも一気に後続との差を開いてホームストレートに戻ってきた。
- 7 周目にはファステストタイムを叩き出し、2 位に対して 15 秒近くの大差を築き 31 周してピットイン、ドライバー交代をした。
- コースに復帰した平川は、約 20 秒までリードを広げて快走。
- 37 周目に再びセーフティカーが導入されて、リードを失ってしまったが、43 周目の再スタートから後続を突き放した。
- 第 1 スティントで 2 位へ順位アップした 36 号車を従えてゴール。TOM'S チームの 1-2 フィニッシュで開幕戦を終えた。

Driver	Car No.	Race Result/Fastest Lap	
平川 亮	37	P1	1' 29.260
ニック・キャンディ			1' 29.086

天候/路面	曇り時々晴れ/ドライ
気温/路面温度	26~26°C/39~34°C

平川 亮 (37 号車ドライバー)



「まずは、本当に嬉しいです。自分自身昨年からのスープラの開発に関わってきたので TOYOTA GAZOO Racing とブリヂストンの苦労をよく分かっているのです、その努力が実って本当によかったです。今回は最高の形で勝てましたけれど、一方で課題も見つかっているので、その点の改善も必要ですし、ウェイトハンディも積まれるので次戦、同じ富士ではもっと速いマシンに仕上げる努力が必要です。シーズンは始まったばかりなので、GR スープラのパフォーマンスをもっと向上させなくてはならないと考えています」

ニック・キャンディ
(37 号車ドライバー)



「ポールポジション獲得から決勝でファステストタイムもマーク、そして優勝というパーフェクトな 1 日だった。今の気持ちはスーパー、スーパーハッピーだ。素晴らしいマシンを開発してくれた TOYOTA GAZOO Racing と TOM'S チーム。そして最高のタイヤを供給してくれたブリヂストンの努力が結果に結びついたと思っている。しかし、シリーズは始まったばかりだし、ライバル達も速さを増してくるから安心してはいられない。この調子でポイントを積み重ねていって最大の目標であるチャンピオンの奪回まで突き進みたい」

小枝正樹 (37 号車エンジニア)



「良かったです。最高の結果を残すことができました。セーフティカーが入って欲しくないと思っていたら、スタート直後とレースの後半で入って心配でしたが、ドライバー二人が落ち着いて再スタートでリードを広げてくれました。決勝直前のウォームアップ走行でトップタイムを出せて、その時のフィーリングも良くて新たなセッティング変更の必要は無いと判断して決勝に臨めました。タイヤの選択もバッチリ決まって勝つことができました。終盤は 36 号車にだんだんと差を詰められましたけれど、亮が落ち着いてゴールまでマシンを運んでくれました。今回の結果でスープラのライバルに対するアドバンテージはあると分かったので、ウェイトを積まれても速さを発揮できると思いま

す。次戦同じ富士で良い結果を出せるよう努力します」

東條 カ(チーフエンジニア)



「TOM'S チーム 1-2 フィニッシュ。そして開発に携わってきたスープラが 5 位まで独占して最高な開幕戦でした。ようやく迎えることができた初戦で結果を出せてひと段落という感じでしょうか。37 号車の今回のパフォーマンスは鉄壁ですね。5 台のスープラは、皆ハードタイプのタイヤで決勝を戦っているのですが、全く同じタイヤではなくて若干キャラクターが異なっていました。TOM'S の 2 台も当然タイヤのキャラクターが異なります。37 号車はタイヤのマッチングも最高な状況であったことが完勝につながったと思います。次戦も同じ富士スピードウェイで戦われるのですが、ウエイトハンディが積みれ、季節が進んでコンディションが変化して行くので同じような戦いができるかどうかは全く分かりません。まだ決まっていませんがレースの距離も変わるかもしれないという情報もあります。どのような状況でもスープラ、そして TOM'S が最高のパフォーマンスを発揮できるように頑張ります」

山田 淳(37 号車監督)



「今日の結果はドライバーの二人とエンジニアとメカニックの努力の結果得られた勝利です。ですからオペレーションサイドは、状況を見つめているだけでした。2 台体制のチームとしては最高の結果を残すことができましたし、37 号車はパーフェクトなレースを展開できました。走り出しからセットアップも決まっていたし、タイヤのチョイスも良くて、レース直前のウォームアップでもトップタイムをマークできて、途中で雨が降ってこなければ大丈夫ではないかと思っていました。そしてトップ 5 をスープラが独占できた。シーズンオフにこのマシンを開発してくれた TOYOTA GAZOO Racing さん TCD さんブリヂストンさんの努力に感謝しています。しかし、改善するべき点もあるので、それを見直して第 2 戦に臨みます」

館 信秀(総監督)

「ニックの瞬発力。亮の安定感は最高だった。新型スープラのデビューウインを達成できて、TOM'S 1-2 フィニッシュで開幕戦を終えることができた。新型コロナウイルスによって、開幕戦が遅れて開催され、無観客のイベントではあったけれど、ファンの皆さんにもメディアを通して楽しんでいただけたのではない

TOM'S

TGR TEAM KeePer TOM'S

KeePer
COATING FOR SMART CAR LIFE



かと思っている。2020 年シーズンは幸先良いスタートを切ることができた。このパフォーマンスを維持して戦いを続けてチャンピオンの奪還を目指したい」